

## 憤せざれば啓せず

孔子の『論語』からある言葉を紹介します。孔子は今から二千数百年前に生きた中国の思想家で、三千人の弟子がいたとされています。『論語』は、孔子と弟子たちの言葉や行動を記したものです。

紹介するのは、孔子が弟子達に言った次の言葉です。

「憤せざれば啓(けい)せず。悱(ひ)せざれば発せず。一隅を挙ぐるに、三隅を以て反(かえ)らざれば、則ち復(ふた)たびせざるなり」

「憤せざれば啓せず。」とは、「学問に対して、ふるい立つほどの情熱をもたない者には、教え導くことはしない。」という意味です。

「悱せざれば発せず。」とは、「わかっていながら、それを口に出せないで、もどかしく思うほどの積極性を示さない者にも、教えることはしない。」という意味です。

ちなみに、「憤せざれば啓せず」の「啓」と、「悱せざれば発せず」の「発」とは、「啓発」という言葉の語源とされています。

そして「一隅を挙ぐるに、三隅を以て反らざれば、則ち復たびせざるなり」とは、例えとして、「四角の一隅について教えた場合、それを基にして、他の三つの隅についてまで、自分で考えて返答して来ないようでは、二度と教えることはしない。」という意味です。

高等学校の教育では、この言葉ほど厳しく突き放したりしません。分からない生徒を放っておくこともありません。一方で、この言葉のように、「自ら学びたい。」という気持ちは、とても大切なものと考えます。そして、すべてを教えてもらうのではなく、教わったことをもとに自分で考えて、他の真理を導き出そうとする探究的な姿勢は、学ぶ者のあるべき姿です。

我々教員は、そのように自分で答を導き出そうとしている皆さんに、「こうしてみては？」とか「こういうふうに考えてみては？」というアドバイスをして、皆さんが答にたどり着くサポートをしたいと思います。

自らの意欲で学び、自ら導き出した答は、その学びの姿勢そのものとともに、確実に皆さんの血となり肉となり、やがて、自分の将来を切り開いていかねばならないとき、心強い味方となることでしょう。そして、この学びの姿勢は、先ほど言った「知っていること、できることをどう使うか」ということを考えるためにも、大変重要なものとなります。これから始まる高校の学習では、ぜひ、この「主体的な学び」に取り組んでほしいと思います。